

平成18年度 第3回市民企画事業補助金審査委員会 会議録

- 1 日 時 平成19年3月5日(月) 13:00~15:30
- 2 場 所 クリエイトホール 第2学習室
- 3 出席者 委員：渡戸委員長、前野副委員長、西委員、橋本委員、大瀧委員、
山家委員、東條委員
事務局：白柳市民活動推進部長、設楽協働推進課長、松岡主査、
田代主任
- 4 会議当日配付資料

資料1 平成19年度市民企画事業補助金 本審査 結果一覧表
活動支援部門(得点順)(受付番号順)
事業実施部門・新規分(得点順)(受付番号順)
事業実施部門・継続分(得点順)(受付番号順)

資料2 平成19年度市民企画事業補助金 本審査 事業別個表
活動支援部門
事業実施部門・新規分
事業実施部門・継続分

- 5 議事進行
開会(協働推進課長)
配付資料の確認
平成19年度申込事業の最終選考審査

この後、予算との関係を考慮しながら、活動支援部門、事業実施部門の順に獲得点の低い方から審査。

活動支援部門

A-新- 2 みんなで考えよう

渡戸委員長：各委員から、簡易製本で自己負担してはどうか。読書会に参加するメンバーの単なる感想文集にすぎない。狭域での活動と思う。八王子市民へのPR活動に工夫が必要と思う。公費から支出する必然性が薄い、という意見があるが、他には。

橋本委員：感想文集ではないか。補助金を出す必要性ないように思う。

西委員：自分たちで簡易製本して作ればいいのではないか。

東條委員：内々の会の活動のような気がする。

A - 新 - 3 アバンティ情報発信事業（活動紹介）

渡戸委員長 : 各委員から、まずは自らの足で稼いで広げ、実績を作ってほしい。具体的な活動内容が見えないし、何をしようとしているのかの計画も見えない。企画自体に具体性がなく、将来計画もないので評価がむずかしい。公費を使っての広報活動の前に、まず実際に活動を行うことが必要ではないか。スポーツをテーマに、どのような活動をするのか不明確。既存の団体との違いがわかりにくい、という意見があるが、他には。

橋本委員 : 活動がまだない状態での申請である。

西委員 : 計画の内容が明確でない。

渡戸委員長 : 補助の申請をするのだったら実績を作ってからの方がいい。

前野副委員長 : 何をしようとしているのか見えないものへの補助はできない。

A - 新 - 8 八王子・生き甲斐支援のカウンセリング/心理学普及事業

渡戸委員長 : 各委員から、生きがい支援カウンセリングは、やはり昨今のメンタル的に病む人が多い中、ニーズが高いと思う。団体向けになっているところも初の試みでよいと思う。公費でPRすべきかどうか疑問。活動の一つとして医療、福祉関連の団体を招いての勉強会を行うとのことですが、連携はとれるのでしょうか。活動分野も見えにくい、という意見があるが、他には。

前野副委員長 : 50名の会員の中で八王子市は2名。今後、どう生かしていくのかわからない。

橋本委員 : カウンセリングの勉強会をして、その先が見えない。

前野副委員長 : 勉強会に参加した人をどう生かすかがわからない。

渡戸委員長 : 心理学の講座は高いのがたくさんある。

前野副委員長 : 前にも不登校に関する事業の補助の申請があったが、教育委員会がもっとバックアップすべきとコメントつけて補助を出したことがある。

大瀧委員 : 生きがい支援のカウンセリングとあるが、具体的にどのようなものか、目的の中には健康な社会の建設とあるけれど、どのへんが八王子の福祉に寄与するのかわからない。

前野副委員長 : 勉強会の後どうするのかを知りたい。

東條委員 : カウンセラー資格を取るのはかなりきびしい勉強をしないと行けない。

渡戸委員長 : 一旦、ここまでにして、再度戻って議論しましょう。

A - 新 - 9 認知症理解に向けて～自分のため、誰かのため・・・～

渡戸委員長 : 各委員から、小冊子作成後の働きかけの計画がない。活動のPRではなく、絵本のしかも180部の発行では、団体活動を広く広報する事とは異なるのでは。認知症に対する理解は、大変大切で、着眼点はよいと思う。小冊子の発行だけで、記載の効果がでるか、疑問である。180部の小冊子作成だけでは、事業目的が達成できないと思います、という意見があるが、他には。

山家委員 : 認知症についての情報は混乱状態や家族の大変さのみが強調され、当事者について知らされる機会が少ない。10万円の中でも、わかりやすい紹介書を作るのは意義がある。

前野副委員長 : 中途半端な感じがする。事業実施部門で行うものではないか。団体の活動の中身もわからない。

山家委員 : 予備審査ではどうだったか。

事務局 : 予備審査では、小冊子の配布によって会のアピールができ、認知症サポーターの増加が期待できるとは思えない。具体的な効果がわからない、という意見があった。

渡戸委員長 : 一旦、ここまでにして、再度戻って議論しましょう。

A - 新 - 7 不登校ひきこもり者自立支援及びカウンセリング新事業に関する広報活動

渡戸委員長 : 各委員から、中核メンバーの実績はありそう。新聞折込で広く伝え、地域に根づく活動に育ってほしい。受入れ体制に不安を感じる。PRしても対応ができなければ逆効果となる。近年増加している「ひきこもり」は、本人以上に家族が困っていると思う。PR活動を通して、市民の方たちを救う手立てになれば、とても意義のある活動になると思う。問題の性格とニーズのある人を考えると、対費用効果の観点から不特定多数へのPRの有効性には疑問がある。リーフレット、チラシ作成だけのために補助金を申請している、という意見があるが、他には。

前野副委員長 : 地域に限定した事業の補助申請が出たことがあったが、そのときは、その団体では、他までは手が回らないとのことだった。今回、それは大丈夫か。

山家委員 : 関係機関にパンフレットを置いてもらったのPRは良いと思うが、新聞折込でのPRは有効か。信頼があって依頼するものだと思う。

渡戸委員長 : 事業内容で、リーフレット部分のみの補助としてはどうか。

前野副委員長 : いきなり相談は行かないと思う。

東條委員 : 事務局に聞くが、教育センター・高尾山学園などにこのようなリーフレットは置けるのか。また、一部の経費を補助対象として減額することは可能か。

事務局 : ある程度審査はあるが、置くことは可能である。これまで、全体の事業の金額を削っての減額はないが、一部についてのみの対象とし、減額して補助したことはある。

前野副委員長 : 今回は、リーフレットのみ。チラシについてはもっと研究してもらいたい。

渡戸委員長 : 5万円に減額して、リーフレットのための補助とします。

A - 新 - 4 民間レベルの日中友好活動基礎作り

渡戸委員長 : 各委員から、自己努力に加え、自己負担もある。具体的な事業計画及び収支計画がない。収支計画は広報費用のみである。収入の会費 250 千円の計上根拠が不明。 $9,000 - 6,000 = 3,000 \times 38 \text{名} = 114,000 \text{円}$ 。人が集まりやすいテーマで計画されていると思う。今回の広報で、多くの参加者をつのり、日本の文化も伝えられるようになってほしい。中国語学校の営業に直結しているのではないのでしょうか、という意見があるが、他には。

東條委員 : 会場に予定しているところが、学校である。

渡戸委員長 : 日中友好協会は別にあるのか。

事務局 : そことは違う団体である。

A - 新 - 9 認知症理解に向けて～自分のため、誰かのため・・・～

A - 新 - 8 八王子・生き甲斐支援のカウンセリング/心理学普及事業

渡戸委員長 : ここで活動支援部門について残ったものを再度検討しましょう。「認知症理解に向けて」の問題は、180部ということ。

前野副委員長 : 普段の活動がわからない。作成されたものは、関係機関や学習会で配布し、一般へはない。

山家委員 : この団体にとっては大事業であろう。これが種になって育てばいいと思う。

前野副委員長 : 一般の人の活用がない。本の出版に特化していて補助はむずかしいのでは。

渡戸委員長 : 「八王子・生き甲斐支援のカウンセリング」については。

前野副委員長 : 成果を生むのかといった危惧がある。

【結果】活動支援部門

採択事業 A - - 2、A - - 3、A - - 4、A - - 1、A - 新 - 5、
A - - 5、A - 新 - 1、A - 新 - 6、A - 新 - 7

不採択 A - 新 - 9、A - 新 - 8、A - 新 - 4、A - 新 - 3、A - 新 - 2

事業実施部門

渡戸委員長 : 事業実施部門も得点の低い事業から審査していく。

B - 新 - 10 第3回文化講演会

渡戸委員長 : 各委員から、著作権関係業界との連携で進める方がよいと思う。講演を行うのであれば、著作権にもっと特化すべきであると感じた。交通費の計上が大きいのではないか。著作権の普及・啓発・相談は、どれぐらいのニーズがあるか？また、著作権のことだけであれば、八王子からの補助金申請以外にうけられるのではないか？公費で負担すべき事業かどうか疑問がある。一口に著作権と言っても、さまざまな分野があり、何の著作権について取り組んでいきたいのかわかりにくい、という意見があるが、他には。

西委員 : 著作権問題を中心としたものにしてもらいたかった。

渡戸委員長 : プレゼンテーションの時の印象も評価が低いと感じていた。

B - 新 - 9 健康吹矢の実習でシニアの健康を維持向上する事業

渡戸委員長 : 各委員から、レク協との連携で進めることの方がよいと思う。前回は提言済み。一時的なブームであるところあり、将来性がみこめない。吹矢のみの活動ではなく、健康維持の為にもう少し創意工夫が必要と思う。公費で負担すべきかどうか疑問がある。講師謝礼や、用具にお金がかかりすぎではないでしょうか、という意見があるが、他には。

渡戸委員長 : 杉並の健康吹矢の会に話を聞いたが、健康に良いというのを実感した。

前野副委員長 : レク協はいろいろなものをやっている。イベントもやっている。そういうところと一緒にやればいい。

B - 新 - 16 パン作りを通じた精神障害者地域参加支援事業

渡戸委員長 : 各委員から、もう1年補助をして活動の安定を期待したい。社会参加の手段に「パン作り」に特定している分限定される。障害者が、ものづくりで社会復帰することはとても重要と思う。パンづくりも販売することで、収益をあげ、自立運営をがんばっていただきたい。教室(パンの販売も含む)と、障害者サポートとの線引きがあいまいに感じます、という意見があるが、他には。

橋本委員 : 補助の対象がほとんど購入代金だ。

西委員 : ホームページ作成が20万円と高額で内訳がわからない。

渡戸委員長 : 昨年度に申請があったか。

事務局 : 昨年度、申請があったが不可。講演会で会の趣旨と違った。その前年は、活動支援部門で交付した。

山家委員 : うつの方はコンスタントに製造できないので、販売業としての運営は厳しいはず。

前野副委員長 : 地道にやってもらいたい。パン作りに適さない方はどうするのか、よその団体との連携とかはないのか。

渡戸委員長 : 一旦、ここまでにして、再度戻って議論しましょう。

B - 新 - 1 2 子どもの思い発信

渡戸委員長 : 各委員から、募集用のチラシやポスターに費用がかかりすぎているのではないかと思う。もっと簡易的な方法でも可能なのでは。また、他でおこなわれている灯籠流しとタイアップしてもよいと思われる。公費負担すべきかどうか疑問がある。浅川での催しをきっかけに、子どもたちに地域や自然のこと、家族や友達のことを考えるきっかけ作りになると思う。地域社会の中で、姿が見えにくいといわれている青年の団体がこのような事業に取り組んでいるのは意義があると思います、という意見があるが、他には。

橋本委員 : 支出の内容がポスター・チラシの経費ばかりだ。

渡戸委員長 : はじめての応募か。

事務局 : この事業では初めて。以前に成人式で応募したことがある。

B - 新 - 1 1 すてきな自然！きれいな空気！豊かなパワーで美しい街づくり

渡戸委員長 : 各委員から、ボランティア活動費、時給 500 円は適切か？"市の講座 環境診断士・環境学習リーダーの各講座の修了生で環境市民会議で活動するようになっており、6 地区市民会議でも進められている内容である。ただし桜の植樹を除いて。また、同様の組織としてはエコ・ネットワークがあり、これは各地区市民会議の中心メンバーとなり、前述の講座等の指導的役割も果たしており、改めて市の助成金を必要とする活動団体はいかなものか？小・中学との交流とあるが、具体性にかけているように感じられる。また、バイオディーゼルを使用する件も、まだ、八王子として、本格実施となるまでには、さまざまなクリアすべき問題があると思う。作業服代、活動費等会員個人に帰する支出が半分以上占めており、公費負担は疑問である。総事業費の中で、メインになるはずの植樹にかかる費用が 13.9%しか計上されていないのは、という意見があるが、他には。

前野副委員長 : 市の環境学習リーダーの修了生で、地区ごとに活動しているのとダブる。ちょっと違うのではないか。テーマが特化（炭焼きなど）しているわけではない。

大瀧委員 : 小・中学校との交流が具体的でない。バイオディーゼルには課題がある。

B - 新 - 13 豊田直巳写真展「子どもたちに平和を」

渡戸委員長 : 各委員から、なぜ八王子の市民事業でおこなわなくてはならないのかという点が今ひとつ納得できませんでした。平和を軸におもしろいともむずかしい企画とも思う。対談イベントの参加費が、少々高いと思われる。写真展は、経費がかかりすぎる割にインパクトが少ないと思います。有名人を呼ぶ必要もないのでは、という意見があるが、他には。

前野副委員長 : 応募する人に、団体の募集する意図が伝わるか不安。

東條委員 : 今は、取材に児童の写真を撮るのにも前から写さないよう注意している。その点は大丈夫か。

山家委員 : 紛争地域と平和な日本との対比、発想が独自。

渡戸委員長 : 一旦、ここまでにして、再度戻って議論しましょう。

B - 新 - 6 音楽福祉で高齢者障害者に活力を

渡戸委員長 : 各委員から、若い会員が増えるような工夫が望まれる。広報費・通信運搬費等、もっと経費を節減できるのではと感じた。主旨はとてもよいと思うが、計画の中に広がりがないように感じられる。ホームページに費用が掛かりすぎていると思います、という意見があるが、他には。

前野副委員長 : 老人会や町会のサロンなど、他にも似たような活動を行っているグループがある。新しい活動ならまだしも、ここに補助金を出すとすると、他のグループにもどんどん補助金を出さないといけなくなる。

東條委員 : 今年この事業を採択すると、来年から似たようなものがどっと来る恐れがある。

山家委員 : 回数も多くここまでがんばっていられるところは、少ないのではないか。

B - 新 - 16 パン作りを通した精神障害者地域参加支援事業

B - 新 - 13 豊田直巳写真展「子どもたちに平和を」

渡戸委員長 : ここで事業実施部門について残ったものを再度検討しましょう。「パン作りを通した精神障害者地域参加支援事業」「豊田直巳写真展」。

山家委員 : 「豊田直巳写真展」は、プレゼンテーションを若い方がされていた。若い方の参加が少ない中、応援したい。

前野副委員長 : 応募してもらう学校に趣旨を徹底しきれないだろう、後から問題が出てくる

と思う。そういった事業への補助はいかがか。
西委員 : 写真展を行うだけのために補助金をつかうのか。平和はいろいろとらえ方が
ある、こういった展示になるか不安は残る。

渡戸委員長 : では、「パン作りを通じた精神障害者地域参加支援事業」も含め、点数順で
採択をしたいと思います。

【結果】事業実施部門

| | |
|------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 採択事業 | B - - 3、B - - 6、B - 新 - 3、B - - 5、B - 新 - 14、 B - 新 - 5、B - 新 - 7、B - - 1、B - 新 - 20、B - 新 - 2、 B - 新 - 18、B - - 4、B - 新 - 21、B - 新 - 8、B - 新 - 4、 B - 新 - 17、B - 新 - 19、B - - 2 |
| 不採択 | B - 新 - 6、B - 新 - 13、B - 新 - 11、B - 新 - 12、B - 新 - 16、 B - 新 - 9、B - 新 - 10 |

渡戸委員長 : 現在、補助金の合計額は、活動支援部門が84万9千円、事業実施部門が
793万円、合計で877万9千円。この他、全体の中で意見があったら願
いします。

東條委員 : B - 新 - 18 3世代交流広場事業は、国の補助で子どもの拠点をあちこち
に作るという話を聞いた。その補助金がつけば、敢えてこの補助金の採択をし
なくてもよい。

事務局 : はい、重複しないようにする。先に確認できなくても、返還してもらうこと
も可能。

前野副委員長 : B - 新 - 4 学校図書館999(キューキューキュー)！は、補助金を受けて
いる団体が「司書配置」を訴えるのはいかがなものか。学校図書館をどう生かし
ていくのかに特化してやってもらいたい。

渡戸委員長 : B - 新 - 20 高尾周辺花めぐりガイドブックは、場所の特定がされないよ
うに配慮してやってもらいたい。委員会からのコメントとしてほしい。

前野副委員長 : デイジー図書は、同様の活動をしている南大沢音訳の会「こだま」などにも
情報提供していってもらいたく、委員会からのコメントとしたい。

渡戸委員長 : 審査は以上で終了する。

6 今後の日程について

審査結果意見書の市長への提出
申請団体への採択可否の通知
採択団体への交付説明会
審査結果の市民への公表
18年度分の成果報告会

3月16日(金)午後1時30分(副委員長)
予算が議会で議決され次第発送
3月28日 夜 に開催
広報4月15日号及び市ホームページ
5月26日(土)(各審査委員出席)

7 閉 会